

私の推薦



みやもとまり 宮本眞里 さん
(四 富の原東)

時の止まった赤ん坊

曾野綾子 著

「好きな作家は」と聞かれると若い頃から、ちよつと間をおいて「曾野綾子」と答えている。ここに残った本はたくさんあるけれど、この本は濃密なそして豊かな人生を見せてくれる。舞台はマダガスカルのカトリックの産院。ここで働く日本人修道女の目とこころを通して私たちは、物質的には貧しいけれどこころ豊かな土地の人々や私たちの日常的な豊かさの中からは想像もつかない「ぜいたく」を知ることができる。

例えば、生まれても貧しいがゆえに生きる見込みのない子は保育器の使用(つまり命)を別の子に譲っていく。潔い人生だと作者はいう。また、登場人物の問いかけに対する神の返事がきちんと見えるのも興味深いと思う。全巻通して現れる夕映えの光も、私たちの行く道を照らしてくれるように思える。ふだん話題にする事の少ない国に目を向けるきっかけを作ってくれる本である。

目より情報

12月18日(日)はクリスマス会です

- ・午後1時30分～ ブラックパネルシアター
- ・午後2時15分～ ボンボンでマスコットを作ろう(泗水図書館)

11月5日(土)に「としよかんまつり」を開催しました

昔懐かしい紙芝居やブラックパネルシアターなどの催しがあり、たくさん子どもたちや親子連れなどで賑わいました。(泗水図書館)



ワンダー文庫による「ペープサート」

冬至(12月21日・22日ごろ)

日本では、冬至にはカボチャを食べたり、ゆず湯に入ったりする習慣があります。カボチャを食べると中風(卒中、体に起こる後遺症の麻痺)にからないと、ゆず湯に入れば体が温まって風邪をひかないなどといわれています。(中央公民館図書室)

クリスマスに靴下を吊るすのはなぜ?

「貧しくて身売りすることになった3人姉妹を哀れに思ったセント・ニコラウスが、姉妹の家の窓に干してあった靴下に、黄金の袋をこっそり入れました。そのおかげで、姉妹は幸せに暮らすことができました」という話と、「セント・ニコラウスが貧しい人の家に投げ入れた金貨がたまたま暖炉に干してあった靴下に入ったことから靴下を吊るすようになった」という、2つの伝説があります。(中央公民館図書室)

問い合わせ先
中央公民館図書室 ☎ (25) 1672
七城公民館図書室 ☎ (25) 1580
旭志公民館図書室 ☎ (37) 3111 内線 303
泗水図書館 ☎ (38) 6866

12月の予定

	中央公民館 図書室	七城公民館 図書室	旭志公民館 図書室	泗水図書館
1 木				
2 金				
3 土	きくちおはなしのもり 冬のおはなしかい 10:30~		閉室日	
4 日	閉室日	閉室日	閉室日	
5 月				休館日
6 火				
7 水				
8 木				
9 金				
10 土	きくちおはなしのもり おはなしかい 10:30~		閉室日	おはなしかい 11:00~
11 日	閉室日	閉室日	閉室日	
12 月				休館日
13 火				
14 水				
15 木	閉室日			
16 金				
17 土			閉室日	古典を楽しむ会 14:00~
18 日	閉室日	閉室日	閉室日	クリスマス会 13:30~
19 月				休館日
20 火				
21 水				
22 木				
23 金	閉室日	閉室日	閉室日	休館日
24 土			閉室日	
25 日	閉室日	閉室日	閉室日	
26 月				休館日
27 火				
28 水	閉室日	閉室日		
29 木	閉室日	閉室日	閉室日	休館日
30 金	閉室日	閉室日	閉室日	休館日
31 土	閉室日	閉室日	閉室日	休館日

新着図書情報

泗水図書館



四月の雪 キムヒョンギョン 著
「僕たちが出会ったのが今じゃなければどうなっていたらどう？」ペ・ヨンジュンが心を焦がす許されざる愛。身を切られるほど切ない大人の純愛物語。

HOKKAI 高樹のぶ子 著

百年の時を越えて、小説家の「私」を魅了する「彼」の秘密は何？アールヌーボーに影響を与えた近代の傑作、高島北海を描く長編小説。現代に生きる女性作家「私」から語られる、植物を愛した画家の謎と真実。

名をこそ惜しめ 津本 陽 著

未曾有の激戦地で、物量に劣る日本兵が米軍側に多大な損失を与えることができたのはなぜか。日本人の本質を問う、著者渾身の戦記。

かんじき飛脚 山本一力 著

「金沢から密丸を運べ」幕府を敵に回した加賀藩を救うため、雪の山を越えて国許へ走る飛脚たち。行く手には大雪、荒れる海、刺客、そして裏切り。期限は10日。飛脚たち、駆け駆ける!



探偵は黒服 藤田宜永 著

33歳の福光信輔は、銀座のクラブ「コネッサンス」の黒服。ある夜、ビルの間の小道で、以前同じ店に勤めていた美咲の死体を発見。ところが容疑者扱いされ、独自の調査を開始するはめになるが…。

マルコの夢 栗田有起 著

姉の仕事を手伝うためにフランスへ渡った一馬は、三ツ星レストラン「ル・コント・ブルー」で働くことに。ある日オーナーからマルコの買付けを頼まれ、日本に戻り動き出すが…。幻のマルコをめぐる奇妙な冒険譚。

きみの友だち 重松 清 著

友だち?他人だよ、そんなの。でも特別な他人、大切な他人。嬉しいこと、つらいことがいっぱいあったから「友だち」の意味がわかった。痛みや喪失を乗り越え、少女たち、少年たちはやがて…。

下流社会 三浦 展 著

「いつかはクラウン」から「毎日百円ショップ」の時代へ。もはや「中流」ではなく「下流」化している若い世代の価値観、生活を豊富なデータから分析。「下流社会」とはどんな社会なのか?階層問題における消費社会論。

バルテュスの優雅な生活 節子・クロソフスカ・ド・ローラ 著

92年間の生涯を、ひたすら描きつづけた孤高の画家・バルテュス。代表作を網羅し、誤解と賞賛に彩られた人生の物語を、写真や節子婦人の回想で辿る。

闇夜の国から二人で舟を出す 小池真理子 著

行き着く先など、ワカラナイ。ならば流されてゆけばいい。私はいまも生きて、恋して、書いている。創作の秘密、生と性の「証」のエッセイ集。

だれも知らないサンタの秘密 アラン・スノウ さく

サンタさんってなぞだらけ。どこに住んでいるの?欲しいものをなぜ知っているの?いったいサンタさんはクリスマスという「大事業」をどうやって行っているの?驚くべきヒミツ、サンタ極秘情報ガ次々とわかります。

まんげつのように シリーズあらしのように7 あべ弘士 絵 木村裕一 作

大好きな友達が変わってしまっ、それまでのことをすべて忘れてしまっていたら…?オオカミのガブとヤギのメイがたどりついたのは、希望の森か、それとも哀しみのはてなのか。2匹の友情のゆくえは…?



がいこつ 和田 誠 絵 谷川俊太郎 詩

ぼくはしんだらがいこつになりたい。がいこつになってようちやんとあそびたい。誰かをほんとにすぎななったら、怖いものはなにもない。詩情あふれるあたたかな、恋の絵本。

マーリン4 時の鏡の魔法 T.A.バロン 著

「時の鏡」をつかったおそろしい罠。呪いかけられたマーリンの命の時計が残り時間を刻み始め、時を越えた冒険がはじまる。謎にみちたマーリンの少年時代をえがく本格冒険ファンタジーの第4弾。

キウイじいさん 長 新太 え 渡辺茂男 ぶん

キウイの好きなじいさんが、キウイの苗を一本買って庭に植えた。毎日水をあげても、はながひとつぼちりと咲いて、ぼろりと落ちただけ。じいさんは腹を立て、キウイのまわりに「これでもくらえ」と毎日生ごみを埋めはじめたが…。

中央公民館図書室

夕凧の街 桜の国 こうの史代 著

原爆投下から10年後のヒロシマが舞台の「夕凧の街」では、誰もあの事を語ることは無い。ある女性は、それを不自然に思うが、あの瞬間、確かに自分も死ぬべいいと思われた存在である、という恐怖を忘れられずにいる。だが、同僚との恋を通じ変わろうと決心する。50年後を描いた「桜の国(一)」60年後の「桜の国(二)」では、平成の現代まで脈々と生き続ける事実を突きつけられる。



白洲次郎占領を背負った男 北 康利 著

育ちのいい生粋の野蠻人。マッカーサーを叱り飛ばし、日本で最初にジーンズをはいた男。民間より首相吉田茂に抜擢され憲法制定や、GHQ高官にケンブリッジ仕込みの英語力と交渉力で講話締結する等、「従順ならざる唯一の日本人」の称号を得る。「相手が誰であっても理不尽を許さない」痛快で魅力溢れる男白洲次郎とは…。

気分はもう、裁判長 北尾トコ 著

身近の小さないざこざから、窃盗・詐欺・殺人に至るまで法廷を覗けば、どんな事件にも人間ならではの底知れぬドラマがある。傍聴の世界へ、招待する一冊。学校でも家でも学べないリアルで大切な智慧が満載の中学生から読んでほしい「よりみちパン!セ」シリーズ。



その日のまえに 重松 清 著

男女が出会い、夫婦になり、家族をつくって描く幸せな一生…。それを不意に断ち切る、愛する人の死。生と死と、幸せの意味を見つめる表題を含めた連作短篇集。家族、好きな人、そして自分自身が「その日」を迎えるとき、自分はどうしているのか、何ができるのか問いかける一冊。

もぐらのホリーともぐらいも あさみいくよ 作

もぐらのホリーとひとりぼっちの芋が土の中で出会い友だちになった。ある日お芋はホリーの苦手なお日様の下へ行きたいと言い…その結末は。友情と生命の繋がりが溶け合った絵本です。